

# 公開プレゼンテーションニュース

2006年6月11日開催  
発行：大和市市民活動課・玉川まちづくりハウス

2006年6月11日、第4回目の大和市協働事業提案公開プレゼンテーションが開かれました。新規に出された市民からの提案が4件、行政からの提案が5件、事業継続3年目を迎えた事業の市民提案が5件出されました。

公開プレゼンテーションの目的は提案者の想いを理解し多くの人と共有することにあります。さらにいろいろな人が持っている経験や能力、資源を持ちよることで提案の事業化の芽を育てる場でもあります。

7月23日の公開検討会までの期間は、提案者と市の担当課との間で協働事業の可能性を探る公開調整期間となります。

## 渡辺精子協働推進会議代表からのあいさつ

今日は多くの方の応援を受けて第4回公開プレゼンテーションを開くことができました。今年は第1回目に提案され協働事業となった5提案が継続事業としてプレゼンテーションされる部門が加わり、新規提案が市民と行政から9提案あり、合わせて14提案をプレゼンテーションしていただきます。協働事業も回を重ね課題も見えてきました。皆さまの生の声を活かし、相談機能を充実させ課題を解決していきたいと思っております。提案者の想いを共有するため、のちほどポストイットに意見、アドバイス、質問をお願いします。今日は行政の方も大勢いらしてますが、担当課でない職員の方もアドバイスをお願いします。今日のプレゼンテーションを新しい公共を進めるものとしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



## 大和市協働事業提案 プロセス全体の流れ

2. 登録

3. 事前周知 [説明会 3/21]

4. 協働事業提案の募集 [4/1 ~ 5/19]

5. 公開プレゼンテーション [6/11]

6. 公開調整 [6/11 ~ 7/22]

7. 公開検討会 [7/23]

8. 協働推進会議提言 [8/4]

9. 市長の検討結果報告会 [8/23]

10. 事業実施に向けた個別協議

11. 事業実施

11. 事業評価、事業報告会

1. 事前相談

■平成18年度協働事業提案一覧

No	事業名	提案者	担当課	提案年度	page
平成18年度 新規市民提案部門					
1	ダメ！ゼッタイ！薬物乱用防止教育	大和シティライオンズクラブ	教育委員会指導室 安全なまちづくり課	H18	3,10
2	病児保育の周知・広報事業	もみの木医院病児保育室	児童育成課	H18	3,11
3	ママリーダー	(特) 地域家族しんちゃんハウス	児童育成課	H18	3,12
4	移動制約者の外出介助サービス事業	(特) たんぼぼ	福祉総務課 障害福祉課	H18	4,13
平成18年度 新規行政提案部門					
5	緑野青空子ども広場 ツリーガーデン管理運営事業	青少年センター	青少年センター	H18	5,14
6	水再生とみんなでつくる ビオトープ！	中部浄化センター	中部浄化センター	H18	5,15
7	「男女共同参画」わたしが変われば、社会も変わる事業	市民活動課	市民活動課	H18	6,16
8	ドッグラン設置事業	水と緑課	水と緑課	H18	6,17
9	地域防犯活動 「レベルアップ」事業	安全なまちづくり課	安全なまちづくり課	H18	6,18
平成18年度に事業継続3年目を迎えた事業 継続市民提案部門					
10	青少年自立支援事業	(特) かながわ就職支援研修センター	☆産業振興課 ★青少年センター	H15	8,19
11	地域と学校の連携による大和市新渋谷中学校学校開放事業	渋谷きりん未来の会	☆生涯学習センター	H15	8,20
12	子育て家庭サポート事業	(特) ワーカーズ・コレクティブチャイルドケア	☆児童育成課	H15	8,21
13	移動制約者の外出支援事業	(特) ワーカーズ・コレクティブケアびーくる	☆障害福祉課 ★高齢介護課 ★都市総務課	H15	9,22
14	身体障害者、高齢者の通院・外出サービス事業	(特) 大和市腎友会	☆障害福祉課	H15	9,23

\* 市民提案事業については、提案者の希望担当課を記載しています。  
\* 継続市民提案部門の担当欄の☆は現担当課、★は新規希望担当課を示しています。

次ページから各提案者のプレゼンテーションが掲載されています。

■新規市民提案部門

1. ダメ！ゼッタイ！薬物乱用防止教育 【大和シティライオンズクラブ 鳥居さん】



大和シティライオンズクラブは国際的なボランティア団体です。私たちは大和市がよりよい地域になるよう、タイトルの文字通りの活動を提案します。目的は正しい知識を教えるための薬物乱用防止教室と啓発活動による薬物乱用者または2次・3次的被害者のない社会づくりです。薬物など自分には関係ないと皆さん考えておられるかもしれませんが、薬物汚染は意外なほど身近にせまっております。低年齢化しています。昨年の合成麻薬の押収量は5年前の7倍ののぼり、合成麻薬の検挙者の70%は10代、20代の

若者です。薬物は本人の脳と体を壊すだけでなく、幻覚による通り魔、薬物ほしさの窃盗や少女売春などの犯罪に結びつきます。

これを防止するために、できるだけ早い時期、できれば小学生のうちから正しい知識をもってもらいたいと、去年は98の学校や地域、25000人以上の生徒の前で講演啓発活動を行いました。残念ながら大和市では2校しか実現していません。次世代を担う子どもを犯罪から守るため、犯罪を未然にくい止めるためには「愛と熱意」をもった活動が今必要とされています。

2. 病児保育の周知・広報事業 【もみの木医院病児保育室 鈴木さん】



病児保育室とは、保育園・幼稚園に通っている子どもが病気になったときに、子どもを預かる施設で保育内容は普通の保育園と変わらないものです。事業の目的は市内唯一の病児保育施設の存在をもっと知ってもらいたいということです。幼稚園・保育園関係者に周知し、病気の時は医療の専門家がスタッフとしているこちら

にまかせ、本来の保育に専念していただきたいと思っています。

将来は認可保育園を設立し、病気の子どももそうでない子どもも預かれるような施設にしていきたいと考えています。昨年度の収支は1700万円以上の赤字でしたが、社会に必要な活動であると考えています。市には資金負担よりホームページ等による広報をお願いしたいと思っています。

3. ママリーダー 【特定非営利活動法人 地域家族しんちゃんハウス 鈴木さん】



子育て中のお母さんの悩みは「子育てがたいへん」とか「うちの子って変かも」「私は子育てに向いていないかも」などさまざまです。これらの不安は身近に気軽に相談できる相手がないことや、地域に子育てサークルが連携していないことなどに原因があります。そこで、この事業は子育てに関わる人の特技を「ママリーダー」として認定しよう、という提案です。特技とは料理や裁縫、遊びなど何でもいいのですが、認定者にはバッジを進呈します。地域の中でバッ

ジをしている人がいると話しかけやすくなり、そこからコミュニケーションが生まれ知識を交換していくことで他分野でも認定を受けるなど、輪が広がっていくといいなと思っています。また子育てに必要な知識として食育、発達心理学、救急法、幼児教育などの講師を招いてセミナーを開催し、受講した方を学術認定することも考えています。初年度は1分野10～30名ほどの認定を目標に、地域の子育てサークルが活発化するよう、子育て活動に仲間入りしながら、地域の子育て力アップをめざします。



#### 4. 移動制約者の外出介助サービス事業 【特定非営利活動法人 たんぽぽ 廣瀬さん】



障害者や高齢者等の移動制約者の外出の際の困難や不安を解消し、社会参加の促進が図られることを目的に「外出介助サービス事業」を実施したいということです。現在大和市には1万人の移動制約者がいるのに対し介護福祉タクシーは非常に少なく、行政のサービスは通院のみに限定されていて移動困難者の社会参加が阻害されています。当法人は2004年12月に設

立され外出介助サービス事業を行うよう準備を進めてきました。平成16年度に大和市と神奈川県が「福祉有償運送セダン型車両特区」の認定を受けたことから平成17年10月より一般車両によるサービス提供を実施しています。活動は会員制で低廉な料金をいただき運転会員への謝礼や運営費にあてています。平成18年1月、日本財団より福祉車両を寄贈され、現在運転会員6名、サービス利用会員17名で活動を行っています。

#### ● 質疑応答

・新規市民提案2、3の方に質問。子育て＝お母さん、となってしまうのはどうしてか？お父さんを阻害しないでほしい。

・【もみの木医院：鈴木】 私たちもそれは考えたが、一般的にお母さんとしたほうが理解しやすいのではないかと思ふそのようにした。実際の利用者は母親以外が三分の一くらいの割合である。

・【しんちゃんハウス：鈴木】 ママというのはお母さん、女性のみを指すのではなく、広く子育てに関わる人という意味でつけた。男性もママ的な気持ちで関わるときはある。女性に限定しないでコミュニティを広げたいと考えている。

・大和シティライオンズクラブに質問。私は街でパトロール活動をしていて薬物乱用は意識している。安全教育を行いたいのが学校のカリキュラムの都合で校外活動やPTA行事、または活動で行っているのが実情。他市では授業として講演を行っているのか？大和市では授業としての活動を考えているのか？

・【シティライオンズクラブ：鳥居】 神奈川県の中でも授業の中で毎年1、2時間をとってくれる学校もある。子どもの反響もいい。クラスで教えることもあるし、体育館のようなところで講演することもある。できれば大人にも教育が必要なので周りも一体となって行っていきたい。大和市では授業以外の活動も視野に入れている。

・私は大和市でPTA会長をしているが、以前にも

行政書士の方からの提案事業で子どもに講演を行ったことがあった。PTAとしては啓発事業には積極的に取り組んでいきたいと思う。

・病児保育に質問。テーマはすばらしく、今まで大和市になかったのが不思議なくらい絶対必要な活動だと思う。病児を預かるとほかの子に感染する危険はないのか伺いたい。

・【もみの木医院：鈴木】 感染には気を遣っている。おたふく風邪、水疱瘡は部屋、トイレを別にしている。インフルエンザや溶連菌などは風邪として扱っている。4部屋あるので部屋が空いていれば高熱の子どもは別室にするようにしている。

・たんぽぽに質問。資料の事業に要する経費で事務局長謝礼が12万円となっているが、支出の三分の一も占める事務局長とはどのような仕事なのか？

・【たんぽぽ：赤堀】 経費の内訳をご説明すると、運転会員というのは自分のもっている車を社会資源として活用するのでそのことに経費はかからない。昨年からの半期で支出は69万円、収入は52万円赤字である。赤字分は理事が負担しており、理事は今後も報酬はもらわない方針。事務局長は連絡を受け運転会員をコーディネートする役割で、24時間電話を受けているが現在は無償。今後は月1万円くらい報酬を出したいということでこの数字になっている。

#### ■ 新規行政提案部門

～行政提案の取り組みについて（推進会議委員から）～

昨年度の協働事業提案が終わってから、行政の提案をもっとサポートしたいという声が協働推進会議で出され、昨年11月に意見交換会が行われました。その結果協働推進会議委員の中から行政提案支援チームをつくり市民とのコーディネート役割を担うこととなりました。支援チームは市民の目線と感覚を反映させ、提案のテーマや内容、進め方を話し合い、これをも

とに担当課が他の自治体から情報を得るなど新しい動きもありました。よりよい知恵と仕組みを考えるため、「共育」を合い言葉にぜひご協力ください。



#### 5. 緑野青空子ども広場ツリーガーデン管理運営事業 【教育委員会生涯学習部青少年センター 岩崎さん】



緑野青空子ども広場にアスレチック広場を開設し、管理・運営を協働でしたいという提案です。広場の桜の木とヒマラヤ杉をシンボルツリーとし、木の幹を中心にウッドデッキを建設、そこで遊ぶ子どもたちを花に見立ててたくさんのお花を咲かせたいと考えています。現在は地域の自治会などを含めた建設委員会を立ち上げ準備していますので、ここでは建設後の管理運営を

協働事業として提案します。現在中央林間付近の子どもを取り巻く環境は決して良好とはいえず時間・仲間・空間の3つの間を失ってしまっているように見えます。もう一度自分の責任で遊べる空間をつくらうというのがねらいです。この計画実現には地域、遊びを引っ張ってくれるプレイリーダーなどの人材、地域の理解、行政の協力などさまざまな要素が必要です。みなさまぜひご協力ください。

#### 6. 水再生とみんなで作るビオトープ！ 【中部浄化センター 古賀さん】



中部浄化センターにビオトープを設置するため、市民のみなさんの知恵とパワーを借りたいと思い提案しました。水は循環しています。私たち人間は、その循環の輪の中に少し割り込んで水を利用しています。台所やお風呂、トイレなどで利用したあとの水は、中部浄化センターで再生し、再び自然のサイクルに戻されます。再生された水の利用法としては、公園の散水、噴水、冷暖房利用のほか、今回のビオトープなどが挙げられます。ビオトープをとおして、水再生のメカニズムや水環境への理解を深めることにより、下

水道の役割と必要性を認識してもらいたいと考えています。ビオトープとは、バイオ（生き物）＋トポス（場所）という造語で、地域に棲むさまざまな生物が生息できる空間を指します。近隣の事例に「保土ヶ谷バイオガーデン」があります。「保土ヶ谷バイオガーデン」は、企画段階から子どもたちのアイデアを取り入れた手作りのものだそうです。ビオトープの設置場所については、みなさんと一緒に考えていきたいと思っています。お金はあまりありませんが、みなさんの知恵とパワーをお借りしてビオトープ作りを楽しみたいと考えています。



## 7. 『男女共同参画』わたしが変われば、社会も変わる 【市民活動課 樋田さん】



男女の不平等観を減らしたい、という提案です。「自分も変わり周りも変えていきたい」という想いを込めたネーミングになっています。平成16年度に行われた市民意識調査では、66%の人が「男性のほうが優遇されている」と感じています。平等だと考えている人は2割で、これではバランスのとれた社会とはいえないと思います。市では平成23年度には平等と考える人の割合を35%に上げたいと考えています。これ

を実現するために、これまで行政が実施してきた事業に、企画の段階から市民と一緒に考えより多くの方に参加・参画していただけるよう協働事業として提案しました。共に語り、共に学び、共に事業を推進していくメンバーに集まってもらいたい。18年度は市民パートナーを募集し、メンバーとして登録、意見交換や学習を通してチーム作りを行い、来年2月に市民団体を設立し、19年度から具体的な啓発事業を実施していきたいと考えています。

## 8. ドッグラン設置事業 【水と緑課 深田さん】



現代社会の癒しとして動物と触れ合うことがあげられます。その代表的な動物は犬ですが、今は公の場で犬と人が遊べる場がない。そこでこの事業を提案することとなりました。ドッグランというのは犬を放して自由に遊ばせられる犬専用広場のことで、マンハッタンが発祥の地とされています。市内には現在9551匹の犬が登録されており、およそ10軒に1頭の割合です。

市には「公の場で犬を放して遊ばせたい」という要望と「犬を放している人がいる」という苦情が両方寄せられており、これを双方解決できるのがドッグラン設置です。また利用ルールを市民と共に作ることで愛犬家のマナー向上も目指します。市からは場の提供と施設の整備を考えていますので、市民の側でルール作りと管理運営をお願いしたいと考えています。犬を飼っていない方の意見も聞きたいと思っています。

## 9. 地域防犯活動「レベルアップ」事業 【安全なまちづくり課 中村さん】



防犯活動の現状としては、市内150の自治会のうち92団体で何らかの防犯活動を行っています。月に1、2回地域を防犯パトロールするというのが最も多い活動です。その成果として空き巣やひったくりは減少しています。しかし、防犯活動の課題として、年々地域を歩くだけでは

効果は減少しますし、パトロールが交通の妨げになったり、夜間のサーチライト使用など防犯活動のマナーも問題となってきています。そこで、地域の防犯活動を効果的にし、マナーを向上させるためのアドバイスをお願いしたいというのが、今回の提案です。

## ● 質疑応答

- ・ツリーガーデンに質問。建設事業と管理運営事業と分けて考えているようだが、建設事業から協働にすればよりよいものがつくれるのでは？
- ・【青少年センター：岩崎】2つの事業は一体と考えているが、建設事業のほうは地元の団体と協働的な手法ですでに進めている。今回は管理運営部分を協働事業として提案したい。全体的に協働的な手法はとっている。
- ・ドッグランに質問。犬を飼っていない人も交流できるプランも可能なのか？ほかの目的にもその施設を利用することはできるのか？
- ・【水と緑課：深田】犬を飼っていない人にも提案に参加してほしいが、現実的には犬のための施設である。そこで交流をもつとか癒されるとか他の人のための施設にもなっていければいいと思う。
- ・ドッグランに質問。これは水と緑課の提案なのだから、木を切ってドッグランをつくるのは課としてやってはいけないこと。そこをはっきりしていただきたい。ツリーガーデンとビオトープも大和市の環境づくりという視点ではどう考えているか？
- ・【水と緑課：深田】場所をどこにするかはまだ決まっていない。できるだけ緑を残すよう考えたい。
- ・【青少年センター：岩崎】ウッドデッキ建設は木に負担をかけないように、木の周りに行い、木自体には手を加えない形である。

・【中部浄化センター：古賀】再生された水の利用については環境部にアドバイスをもらって連携している。大和市全域にビオトープネットワークを広げていきたいと思っている。

・ドッグランに質問。建設場所は決まっているのか？近隣の住民の協力をとったっているのに場所が決まっていないのでは協力しようがないのでは？

・【水と緑課：深田】今回の提案はまだ実施の前段階であり、場所が決定すれば近隣の方と話し合いをもちたい。

・地域防犯活動に質問。空き巣のプロの話だと、歩いていて声をかけられるまち、子どもが路地で遊んでいるまちはねらいにくいらしい。逆にゴミの集積場や家の周辺が汚いと管理が行き届いてないということでもねられる。防犯とは住民自身の意識の問題ではないか。私の地元ではあいさつ心がけるようになった。

・【安全なまちづくり課：中村】その通りで、みんなで守る意識があれば犯罪が起りにくいまちをつくることができる。今回の提案はそのようなまちをつくる過程でリーダー的な役割を担う市民を育成することも目的である。





10. 青少年自立支援事業 【特定非営利活動法人 かながわ就職支援研修センター 岩崎さん】



大和市と最初の協働事業となった青少年自立支援事業です。ここまでの間32名の若者と関わりました。ここ最近は一ノとと呼ばれる若者が増加している傾向にあり大和市も具体的な政策が必要な時期となっていると思います。フリーターと呼ばれる若者は働く意志がありますからそれほど問題はありませんが、一ノとは

潜在化し実態がよくつかめない。そうなる過程には多くのファクターがあり精神のケアも重要です。青少年センターと今後、協働し一人でも多くの人を就労へ導きたい。それには市民の協力も必要です。他の自治体でもセミナーを行ったり、大和市以外からの問い合わせや講演依頼もあります。引き続き個別カウンセリングとセミナーを実施して支援していきたいです。

11. 地域と学校の連携による大和市立新渋谷中学校学校開放事業 【渋谷きんりん未来の会 渡辺さん】

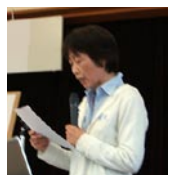


事業の目的は、大和市立渋谷中学校の生徒のみならず、地域住民にとっても学びの場とし、地域に密着した学校開放を推進し、【地域に根ざし、地域の未来を担う学校づくり】を実現することです。協働事業となった当初は建物立派でしたが中身は具体的にはっきりしていなかったところがあります。この3年間、基本となる貸館業務を行いながら会議室などの貸し出しを通しての市民活動の活性化機能、下和田地区の児

童館の機能、国際交流や子どもたちの支え合いの場としての機能などの役割を果たしてきました。この3年間に行った具体的な活動をあげますと①母国語教室②いろいろつくってあそぼう③地域の人に教えてもらおう④映画をみよう⑤きんりん子育てサロン⑥市民向けPC相談会などです。現在の課題としては文部科学省の委託事業が今年度で終わってしまうことによる事業費の減少です。学校との連携を深めよりいっそう地域に根付いた活動をしていきたいと考えています。

12. 子育て家庭サポート事業

【特定非営利活動法人 ワーカーズ・コレクティブ チャイルドケア 福田さん】



事業の目的は子育て中の家庭に対する育児支援等を、行政とNPOが協働で行うことにより、安心して子どもを育てられる環境をつくることです。現在子育てに不安を抱き手助けを必要とする人は増加していますが、公的な保育システムが整備されてきていても利用者の立場に立ったきめ細かいサービスを提供するには限界があります。このようなサービスは「ご近所のたすけあ

いの精神」で市民活動として行うほうが効果的です。情報交換など市民活動と行政との連携があれば市民にとってさらに利用しやすいものとなります。このような提案で平成15年度に協働事業となりました。現在も事務所はなく、コーディネーター費用も無料、メンバーの子育て経験からの子どもへの愛情が原動力となっています。正会員を確保し増加させることが課題です。

13. 移動制約者の外出支援事業

【特定非営利活動法人 ワーカーズ・コレクティブ ケアびーくる 林さん】



移動制約者の移動の自由を保障しようと1999年NPO法人となり、外出介助サービスを行っています。利用目的制限なし、年中無休、当日依頼にも対応しています。会員は現在39名、運転会員が18名、利用会員が247名となっています。福祉車両5台、セダン型20台で活動しており、セダンは社会資源として運転会員から提供してもらっています。知的障害者の方の外出もお手伝いしており、2005年度は9215回の需要がありました。大和市との協働事業となり白

ナンバーで活動することが許可されています。病院へ行くなどの「must」のときだけでなく、「どこかへ行きたい=want」の希望にも応えられるような活動でありたいと思っています。現在の移動介助事業のほかにコミュニティ・バスのDRT(\*)的活用についての調査研究もしていきたい。さらに3年の継続を望みます。

\* DRT(Demand Responsible Transport) とは…  
利用者の要求に応じ、路線バス停、ダイヤを変更することが可能で、主として需要の低い地域に対応したバスシステム

14. 身体障害者、高齢者の通院、外出サービス事業

【特定非営利活動法人 大和市腎友会 中澤さん】



この事業の目的は、障害者、高齢者の移動困難者に対して外出の機会を提供することにより、社会参加による喜びや自己実現、また移動の自由、アクセス権の行使により、閉じこもりから脱却して人との交流や一緒に行動することにより、満足感を得たいと思っている人たちを支援していくことにあります。平成13年1月にNPO法人となりましたが、当会が透析患者の団体であることを意識しすぎて、一般市民に対して壁をつ

くってしまい、なじみにくい特異な存在とみられています。そのため今後は情報発信の仕方を改善し、障害者、患者の痛みがわかる特性を生かして、他の利用者にも真心を込めたサービスを実施していきます。具体的な事業内容としてホームページの開設、介護技術の向上、接客態度、料金、利用しやすさ、手軽さ、さまざまなサービスを検討し利用者本位の移送サービスを実施します。今年で協働事業として3年目になりますが永続的に続けていきたいと考えています。

● 質疑応答

・渋谷中学校学校開放について質問。行政担当課の方に聞きたい。この事業は指定管理者制度を視野に入れてもよいのではないかと？

・【生涯学習センター】現状では検討していない。指定管理者制度が学校施設になじむかという問題もある。いずれは委託も考えていきたい。

・チャイルドケアに質問。資料に「保育園等を軽い病気でお休み中の預かり」とあるが、軽い病気とはどの程度を指すのか？1日の利用者のうち病児の平均利用者数、1日平均の値段と預かる側は有資格者なのかという点と、協働事業になつての

効果も聞きたい。

・【チャイルドケア：福田】軽い病気とは37度台の熱のときもあり、40度近くるときもあるが、どのケースも母親と連絡を取り合うようにしている。急変時はかかりつけ医に連れて行くこともある。1日の利用者の中で病児は数字に上るほどではない。値段は1時間720円、夜間などの時間外は900円となっている。資格については保育士と看護師もいるが資格を持たない者もいる。協働の実績効果として市の広報やホームページをみて、という人が増えたことがあげられる。

■協働事業提案推進カルテ作成

協働事業実現に向けて担当課や参加している市民の方、推進会議委員から具体的なアドバイスを紙に書いて貼ってもらい、提案者を交えてグループに分かれて話し合いが行われ、最終的に提案者がそれらの意見を参考にまとめ、推進カルテを完成しました。

1. ダメ！ゼツタイ！薬物乱用防止教育 【大和シティライオンズクラブ】	
●協議内容の記録	●提案者のまとめ
① 協働事業として取り組む理由について ・ 県・市（保健所）等の既活動と協力することで目的は達せられないのか	・ 薬物乱用や非行の問題は青少年の生き方に起因します。大和シティライオンズの講師は地域密着のボランティア講師なので、何回も反復して行うことができます。
② 協働の具体的内容について	
③ 協働の体制づくりについて ・ 警察の参加についてどう考えているのか ・ 1. コーチのスキルは問題がないのか？ 2. 指導カリキュラムに取り入れ、教室という単位で行うのは難しいのでは？ PTA や校外委員等を通じた方がよいかも	・ 行政、警察、ガーディアンエンジェルス等との連携は必要である ・ つねに新しい情報を取り入れるため、財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターと協働で取り組んでいる ・ PTA とも連携していきたい
④ これから公開検討会までの進め方について	・ 単独でやるよりいろいろな方と連携していきたい ・ できることを検討していきたい。プロジェクト的に ・ 指導室、安全なまちづくり課と協議 ・ 市子連、校長会でPR していく
⑤ その他 ・ 薬物乱用者の更正施設の「ダルク」の松本常雄さんの話や現状の生の声を聞いてほしい。とくに学生間で簡単に薬物が手に入っている、そのルートの水際の防止への努力も必要	・ 体験の話や更正の話は逆効果。更正することが可能であると思わせてはいけない

**提案者からひとこと**  
今回は防犯防災活動の一端として薬物にテーマを絞って取り上げた。クラブに属する個人の資質向上も目指していきたい。みなさんと一緒にできることを探したい。

2. 病児保育の周知・広報事業 【もみの木医院病児保育室】	
●協議内容の記録	●提案者のまとめ
① 協働事業として取り組む理由について ・ 保育所、幼稚園、学校に周知すればよいことではないか？行政の怠慢？ ・ 大和市内にまず1つ作ることは必要ですが、利用者の利便性を考えると各駅の一つが理想的ではないか	・ 隠れた需要が十分にあると、経験により確信している
② 協働の具体的内容について ・ 市からの資金の分担は必要ないのか	・ なぜ資金を要求しないかという大和市民のみに限定されると困るので ・ PR はもちろんのこともっと積極的に協働を考えてほしい
③ 協働の体制づくりについて ・ 各保育園へのPR、広報誌への掲載、ホームページによるPR ・ PR については協働できる	・ 現状ではPR について協働を進めていきたい
④ これから公開検討会までの進め方について ・ 広報の仕方について具体的に調整を進めていきたい	・ どのような形でPR できるか話し合っていきたい
⑤ その他 ・ ボランティアの参加により赤字を減少させられるか ・ 私は東京の大田区に住んでいますが、病児保育の病院をよく利用します。冬などはすでに定員一杯なんて日もあるくらい利用があります。大和市で利用が低調なのが不思議です（単なる感想でスママセン） ・ 病児保育は以前から必要と思っていました。今回の協働事業提案はPR が目的ですか？でも経費が大赤字で継続していくのは困難であると思われます。送迎等は他団体と連携しては？ ・ 大和市では病後児保育に予算をつけているが、市立病院を考えている。病児保育ではない ・ 月に130名来たこともあり需要はある ・ 病後児保育にのみ予算が付いているのは？ 児童育成課→新エンゼルプラン	・ 大和市では病後児保育にのみ予算が付いているが、病児と病後児を分ける意味はないと思う

**提案者からひとこと**  
去年の6月から活動をはじめたが児童育成課から広報掲載を断られ、ショックを受けたこともあった。PR 活動は大変だがニーズはありと確信している。今回の提案で前向きに考えると返事をもらったのでよかった。



### 3. ママリーダー 【(特定非営利活動法人) 地域家族しんちゃんハウス】

●協議内容の記録	●提案者のまとめ
① 協働事業として取り組む理由について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共性の実現</li> <li>・NPO 独自のものでは地域を限定してしまう→行政の力を借りたい!</li> </ul>
② 協働の具体的内容について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ママリーダーの養成・認定後、それをどのように活かしていくか。その後の展開についてもプランがほしい</li> <li>→細かい認定はしないが、やり方のきっかけ作り</li> <li>・具体的にどういった人たちを対象にしているのか? (退職者? 子どもを育てた人?)</li> <li>→広く子どもに興味を持つ人を中心。制限なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての子育て関係者を認定できるような事業へ</li> </ul>
③ 協働の体制づくりについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人材発掘・人材育成」というテーマが共通する部分があると思いますので、協働事業「ふくしの手全員集合」とのコラボレーションを視野に入れた調整ができるのではないのでしょうか (福祉総務課)</li> <li>→話を聞きたい</li> <li>・協力者の集め方は? NPO として</li> <li>→いろいろなところに働きかけていきたい</li> <li>・非常に興味深く感じました。日常的なことを興味深く、楽しく、ネットワークを構築するために役立つと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふくしの手全員集合」とコラボレーション</li> <li>・PR の協働等を具体的に検討</li> </ul>
④ これから公開検討会までの進め方について	
⑤ その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・バッジの試作品はありますか? 声をかけやすくなるような工夫が必要ですね</li> <li>→まだないがわかりやすさを目標に!</li> <li>・守秘義務等の問題をどう考えていますか? 子どもに対する対応はそれぞれかなり違いのあるものですが、行政がその違いを加味した対応の資格などできるものではないでしょうか?</li> <li>→認定は差別化ではないので資格として考えているわけではない</li> <li>→資格に対応する義務を考えているわけではない</li> <li>・必要とする人への働きかけをどうするかが、今後の課題では!</li> <li>・別の地域にも声をかけるために行政と協働したい</li> <li>・広報することで地域化を防止できるのでは?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要とする人 (利用者) への働きかけ</li> </ul> <div style="border: 2px dashed orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>提案者からひとこと</b>            今日はいくらだけたくさんの人が参加し、ちがう提案をして本当に面白かった。一人一人に役割のバッジを進呈したいほど。大和にはこれだけさまざまな人が活動しているということが財産だと思う。</p> </div>

### 4. 移動制約者の外出介助サービス事業 【(特定非営利活動法人) たんぼぼ】

●協議内容の記録	●提案者のまとめ
① 協働事業として取り組む理由について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働事業化へ向けて、前向きに検討できそうである</li> </ul>
② 協働の具体的内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資金援助期間をできるだけ短くしていく</li> </ul>
③ 協働の体制づくりについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働事業としての「移動困難者」の項目で団体紹介にリンクできるようにしてほしい</li> </ul>
④ これから公開検討会までの進め方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害福祉課と協議する</li> </ul>
⑤ その他	
<div style="border: 2px dashed orange; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p><b>提案者からひとこと</b>            普段民間にいたので今日はみなさんのすばらしい考えを聞きたいへん参考になった。われわれの活動はほとんど知られていないという実情で、このPR 不足をなんとかしたいと思う。今日の場に自治会の方を呼ぶとか情報交換の場になればなおよかったと思う。</p> </div>	

5. 緑野青空子ども広場ツリーガーデン管理運営事業 【教育委員会生涯学習部青少年センター】

●協議内容の記録	●提案者のまとめ
<p>① 協働事業として取り組む理由について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該地は地域で最も広い公園。お仕着せの公園などにはしたくない。行政ではできないような公園を実現できる可能性がある</li> <li>・10年、20年後まで残せるものにしてほしい</li> <li>・本来市民からの要望で“遊び場”を作るべきで、行政提案だとつまらない施設が作られそうなので、市民がしっかり意見を言うていく必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政ができることと市民ができることとを、あまり線引きしないで良いものを造っていききたい</li> </ul>
<p>② 協働の具体的内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥が来る場所、虫がいる場所にしたい</li> <li>・山ありくぼみありドロ遊びもできる</li> <li>・親も子ども遊ぶことに関しては自己責任ということが基本で</li> <li>・自分の責任で自由に遊ぶ条例をつくる</li> <li>・冒険遊び場の見学には子どもも大人も一緒に</li> <li>・みんなの施設をみんなで作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多方面からのご意見を取り入れていきたい</li> </ul>
<p>③ 協働の体制づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現行では運営上、法律にしばられてしまうことがある（公園法等）</li> <li>・遊具を遊ぶ側の子ども意見を取り入れて作ることから参加させるようにしてほしいです</li> <li>・ワークショップのファシリテーターとして矢郷恵子さんを推薦したいです</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご助言を生かしていききたい。情報ありがとうございます</li> </ul>
<p>④ これから公開検討会までの進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・羽根木のプレイパークを建設委員会で見学に行かれることをすすめます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行きます！</li> </ul>
<p>⑤ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までも青空子ども広場は活用されていましたが、子どもの居場所、プレイパーク的な機能の場所となるのはすばらしい提案です。建設もですが、できあがったガーデンを管理運営することは難しいです。協働事業で地域と連携し子どもたちの楽しい、心安まる場所となる事業であってほしいと思います</li> <li>→ありがとうございます！</li> <li>・市内に1カ所だけでは利用しにくい子どもの方が圧倒的に多いはず。市内各所に作るべきと考える。2カ所目以降の計画は？</li> <li>・駐車場を併設するのか。併設するとしたら近隣の住民の迷惑にならないような配慮が必要</li> <li>・シンボルツリーが桜とヒマラヤ杉だとアスレチック施設設置に向かないと思う。理由として虫が付く、針葉樹ということでチクチクする。場所を変えるべき</li> <li>・駐車場などは設置しないで自転車で行ける距離に“遊び場”を作ることが大事だと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広場の活用プランに関わるもの。冒険遊び場？プレイパーク？都市公園？方針により今後プランニングしていく</li> <li>・2カ所目以降の計画はないが起爆剤になってほしい</li> <li>・樹木の選定は建設委員会で検討する</li> </ul>

6. 水再生とみんなで作るビオトープ！ 【中部浄化センター】

●協議内容の記録	●提案者のまとめ
<p>① 協働事業として取り組む理由について</p>	
<p>② 協働の具体的内容について</p>	
<p>③ 協働の体制づくりについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設周辺住民との協働</li> <li>・ビオトープ実践者の参加</li> <li>・関係団体との協働</li> </ul>
<p>④ これから公開検討会までの進め方について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係団体へ周知</li> <li>・自治会への周知</li> </ul>
<p>⑤ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体参加として小・中学生の総合学習のために共に活動研究する場になる。そのためには学校の生徒の参加が重要であると思う。教育委員会の協力や指導等、担当課に加わってほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学生は事業が展開するなかで考える</li> </ul>

提案者からひとこと

現在具体的な動きとなっていないので意見は少なかったが、学校教育を取り入れるという意見は検討したい。関係する団体、個人を探しできることから積極的に展開していきたい。

提案者からひとこと

今日はたくさんの肯定的意見をいただき、たいへん参考になった。いただいた意見を生かして取り組んでいきたい。





7. 『男女共同参画』わたしが変われば、社会も変わる 【市民活動課】

●協議内容の記録	●提案者のまとめ
① 協働事業として取り組む理由について ・①事業自体の目的は何か？②男女共同参画は各個人の意識で変わるのか？	・より多くの市民に対し、男女共同参画の意識を浸透する
② 協働の具体的内容について ・これからアクションプランを立てていくというスタンス ・懇話会委員の役割とは別に個人のノウハウも取り入れながら協働を行う	・男女共同参画に関する企画から市民に関わってもらい、事業を展開していく
③ 協働の体制づくりについて ・IS&GID(*)も入れて * IS(Inter sex)…半陰陽 * GID(Gender Identity Disorder)…性同一性障害	・共に学びあい、共に行動していく市民を公募し、学習会等を行いながらチーム作りを進め、市民団体を設立する
④ これから公開検討会までの進め方について	・より多くの市民に参加してもらうため広くPRを行う
⑤ その他 ・男女共同参画は「男性」「女性」を無条件にしているようですが「性の多様性」についての視点が欠けていると思います。その点の推進を入れるべきです	

提案者からひとこと

協働を進めるうえで人材の確保がカギとなる。そのためにこの場を活用し広くPRして人集めをしたい。交流会、研修会を通じ意思統一されたチームをつくりたい。カルテに質問のあった性同一性障害などの問題も含め、「すべての人がやりたいことをやれる」社会を目指す。

8. ドッグラン設置事業 【水と緑課】

●協議内容の記録	●提案者のまとめ
① 協働事業として取り組む理由について ・ NPO ファルの家 (ファミリーアニマルの頭と終わりの文字をとってファル) ・ 下鶴間内山 ・ 犬と地域を愛する会 上草柳 (泉の森団地) Tシャツ作っている 20 - 25 人 ・ 愛犬仲間の会 引地台公園清掃活動 意識を持っているときれいになる ・ 加藤さん 成和病院前 23 頭くらい一緒に集まって遊んでいる緑の広場 ・ 小菅さん ・ 保育園の子どもたちも一緒に	・ 犬の預かり ・ 犬ぞりクラブと一緒に麻布大学 ・ 個人でも OK
② 協働の具体的内容について ・ 利用料金の設定は考えているのか？管理費はどう考えているのか？ ・ 会費は？青葉は無料 ・ 管理費は？草刈り等はみなさんで。設備の補修は市で ・ 狭さの中で樹木を残すことは難しさもある ・ 伐採は最小限で ・ 要望によって木を切ることも ・ ドッグランのために木を切ることは反対 ・ 専門的な知識の方々の意見を聞いていきたい ・ 基本的には森の保全は考えている ・ 大和市の「緑」を増やす方向で考えてほしい。平べったい造成地のようなスペースは犬にとってもよくない。林地とドッグランのリンクという発想がほしい ・ 協議の中で使い勝手のよい施設を検討していきたい ・ ゆとりの森でも考えている ・ 600m <sup>2</sup> くらいでいいのでは	・ 管理費、緑の伐採等これから発生するであろう問題はみなさんと話し合いの中でクリアしていきたいと思う
③ 協働の体制づくりについて ・ 団塊世代の人たちはリタイアすると犬を飼う傾向あり。「森」を歩く人が多くなっています。この「おじさんたち」の輪を作り大和市らしいドッグランを考える ・ 大和市らしいドッグランを！ ・ 候補地は 2、3 カ所→周辺住民との関係もある	・ “ゆとりの森”の計画へつなげていく ・ 大和は 600m <sup>2</sup> くらい。 ・ 青葉の広さ 3000m <sup>2</sup>
④ これから公開検討会までの進め方について ・ 調整日候補：6月21日(水) 分庁舎第3会議室 午後2時	・ 犬に関心のある人、ない人、また地元住民も含めた体制づくりができればと思います ・ 第1回顔合わせ 6月21日 午後2時から
⑤ その他 ・ 犬のきらいな住民への配慮も必要 ・ 樹木等の伐採は最小限で利用可 ・ マナーが悪い(例：畑にフンをしていく、芽を食べてしまう) ・ フンが肥やし→勘違い ・ つるまの森犬の散歩増大!! ・ ゴミやフンを拾っている。注意しても捨てていく人もいる ・ 拾っていると拾ってくれる人が増えていく ・ いかにマナーを守ってもらうかが課題。知恵をいただきたい	・ マナーの向上も大切なテーマである

提案者からひとこと

話し合いのメインは犬の飼い主のマナー問題に集中した。事業を進めるうえで個々の問題を一つずつ時間をかけて解決していきたい。

9. 地域防犯活動「レベルアップ」事業 【安全なまちづくり課】

●協議内容の記録	●提案者のまとめ
<p>① 協働事業として取り組む理由について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・警察との連携は？</li> <li>・情報の共有はかなり進んだ</li> <li>・犯罪発生件数目標 4000 件</li> <li>・県内で高い犯罪発生率</li> <li>・防犯活動は幅広い、対象者も広い</li> <li>・PTA への防犯指導。安全マップづくりもいっしょにやりたい</li> <li>・安全に活動するためのルール向上。内容、知識が不足している</li> <li>・パトロールが始まってまだ時間が浅い</li> <li>・犯罪が多種多様化している</li> <li>・自主防犯活動へのスキルアップも実施している</li> <li>・不安を抱えながらも活動をしている団体もある</li> <li>・こういった団体を支える力を貸してほしい</li> <li>・自治会のほかに PTA の協力を求められないか</li> <li>・協働する相手としてガーディアンエンジェルス以外にあるか</li> <li>→ガーディアンエンジェルスが指導しているのが現状</li> <li>・事業者のセキュリティ会社</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全第一のパトロール</li> <li>・効率的で効果的なパトロール</li> <li>・市だけでなく力を借りたい。いっしょに取り組みたい</li> </ul>
<p>② 協働の具体的な内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レベルアップを図っていただき、行政機関（消防）の負担を軽減できるようにしてほしいです</li> <li>・大和シティライオンズクラブとの協働も可能？</li> <li>・防犯活動は幅が広いので防犯リーダー育成に留まらず、安全マップや防犯講演、講習、児童や子どもを対象とした取り組みを行っていただきたい</li> <li>・大和シティライオンズクラブは広くとらえると防犯。行政提案に協力できる可能性</li> <li>・応募期間はまだある</li> <li>・行政側にも提案をしてほしい。提案をブラッシュアップしていきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的知識、人材の協力がほしい</li> </ul>
<p>③ 協働の体制づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協働の相手は自治会単位ですか？それとも広く一般市民ですか？</li> <li>・今後調整が必要</li> </ul>	
<p>④ これから公開検討会までの進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数回の調整のための打ち合わせ</li> <li>・応募団体等と協議していく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応募していただいた団体等と協議していきたい</li> </ul>
<p>⑤ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯は住民の意識の問題でもある。道での声かけ運動など身近でやれることを徹底すること。行政からの啓蒙運動も必要ではないか</li> <li>・事後処理対策にならず、きれいな町、子どもが遊ぶ町、だれとも話しかけられる町</li> </ul>	<p><b>提案者からひとこと</b> 防犯の取り組みは市民の意識も高く、市民主導の活動である。行政としてはみなさんの点の活動をつなぐ役割として情報の提供などを考えたい。みなさんの力を借りなければできない事業なのでよろしくお願ひしたい。大和シティライオンズクラブの方とも知り合え有意義な機会だった。</p>

10. 青少年自立支援事業 【(特定非営利活動法人) かながわ就職支援研修センター】

●協議内容の記録	●提案者のまとめ
<p>① 協働事業として取り組む理由について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 17 年度どんな事業をどのように行ったのですか</li> <li>→就職セミナー 4～5 日 32 名中 26 名終了 数名が就業している</li> </ul>	
<p>② 協働の具体的な内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニートの数の把握、ニートの掘り起こしの具体的な方策があるのか</li> <li>・問題が広範囲で難しそう。何に対応するのか課題を絞って専門性を高めて効率を上げる方法もある？</li> <li>・ニート、引きこもりの実数自体は相当数あると推測されるが、参加するとなると別で、どのくらいの需要を考えているのか</li> <li>・卒業生のフォロー、アフターケアも大切？「ここでお世話になればうまくいく」という評判ができれば</li> <li>・カウンセリングから掘り起こしをする</li> <li>・NPO フリースペースえん ダメからデキルへ、あとおしするものが自立支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他 NPO との連携</li> <li>・青少年センターとの連携</li> </ul>
<p>③ 協働の体制づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナーに参加する人数が少ない。参加者を増やす努力をどのように行っていく予定ですか</li> <li>・母親クラブでお母さんたちのグループで活動していますので子どもに関して相談をお願いします</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動を更に検討</li> </ul>
<p>④ これから公開検討会までの進め方について</p>	
<p>⑤ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習センターに来所できない方について出張 IT サポートをしている。何か協力できないかと思う</li> <li>・専門家でない人のボランティア参加はどうなっているか？</li> <li>・ニート、フリーター、引きこもりを一緒にくたにしないで対応してほしい</li> <li>・フリースペーススクールなどで社会に出たいと思い始めている人にあと押しできることをアピール</li> <li>・就職支援センターは青少年のみに限らず、中高年の人たちへのアプローチが必要と思われる</li> <li>・平成 17 年度 32 名のなかにニートはおられたのか</li> </ul>	<p><b>提案者からひとこと</b> 引き続き産業振興課と青少年センター、NPO や母親クラブと連携し活動を続けたい。広報でメンバーを集めることも考える。青少年だけでなくシニアの就労支援も検討したい。</p>



1 1. 地域と学校の連携による大和市立新渋谷中学校学校開放事業 【渋谷きんりん未来の会】

●協議内容の記録	●提案者のまとめ
① 協働事業として取り組む理由について ・コミセン（児童館）・学習センターのミニ機能をもっており、協働事業として行った効果が表れています	・基本となる施設開放業務に加え3年間取り組んできた様々な事業を、蓄積したノウハウ、ネットワークを活かし充実させていくことが必要である
② 協働の具体的内容について ・中高生の居場所づくり強化 ・市民が認められる活動内容の展開強化 ・高齢者など地域のつながり強化 ・事業費確保→文科省の助成金がなくなる ・この団体でこそこそできる事業を推進してほしい ・地域がどう変わっていったかを広く納得してもらうように知らせることが大切	・子ども中心の事業を高齢者、中高生などを含め充実させていくことを協働の目的としてクローズアップして取り組む。（予算上の課題も含め）
③ 協働の体制づくりについて	・学校や地域、多様な市民団体との連携を強化するよう提案者、行政が努力する
④ これから公開検討会までの進め方について	・「指定管理者制度」も含めた管理運営方法について学習を行う
⑤ その他	・協働の成果が市民にとって納得できるようPRに注力する

提案者からひとこと

3年前に協働事業として提案し、今日この場で改めて私たち自身が苦労しながら育ってきたと実感した。自分たちの成長が大きな成果となった。「新しい公共」というキーワードを学校という場で実現していきたい。それについてはある程度の成果は出せたがまだ不十分なので、子どもも先生も巻き込んだ形でこれからの課題としていきたい。

1 2. 子育て家庭サポート事業（特定非営利活動法人） ワーカーズ・コレクティブ チャイルドケア】

●協議内容の記録	●提案者のまとめ
① 協働事業として取り組む理由について	
② 協働の具体的内容について	
③ 協働の体制づくりについて	
④ これから公開検討会までの進め方について	・負担の仕組みについて再検討したい
⑤ その他 ・時給の根拠には県の最低基準を考えた ・市の負担金はコーディネーター費用の一部を回数に対して負担している。（現在）30万円 ・負担金の根拠を考えてほしい ・協働の方向で検討する（課）	・チャイルドケアは現在市民のニーズに応えている ・行政は今後も継続してほしいと考えている ・3年経過してこれからも市との協働でよりよい方向に、市の役割と協働事業を進めていく

提案者からひとこと

チャイルドケアはこれまでも市民のニーズに十分応えていると思っている。市からも今後も協働していくとの返事がもらえ、これからもよろしくお願ひしたい。



13. 移動制約者の外出支援事業 【(特定非営利活動法人) ワーカーズ・コレクティブ ケアびーくる】

●協議内容の記録	●提案者のまとめ
<p>① 協働事業として取り組む理由について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DRT (基本的に不便地域) はコミバスになじまない</li> <li>・DRT は別に考えたい</li> <li>・STS/DRT 定期運行が望まれている。なじまない</li> <li>・WANT の種類</li> <li>・需要がまだまだ潜在的にある。今後も必要 (継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・STS (*) → DRT を考えてみたら</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>* STS (Special Transport Service) とは… 外出困難者の日常生活の移動手段として、目的地までの介助も含めたドア・ツー・ドアの個別移送を行うサービス</p> </div>
② 協働の具体的内容について	
③ 協働の体制づくりについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動制約者としての条件がある (法律要件)。会員になる必要</li> <li>・NPO 団体が3つあり利用者が混乱するのでは? ネットワークとして考えたらどうか</li> </ul>
④ これから公開検討会までの進め方について	
⑤ その他	

**提案者からひとこと**  
 推進カルテに貼られた意見は1枚だったが、すばらしい意見をいただいた。先日移動介助サービスをしているときに、近所の方が駐車のための空きスペースをつくってくれた。この活動をすることで市民に福祉の心を広げていけると実感した。活動を継続していきたいと思う。

14. 身体障害者、高齢者の通院、外出サービス事業 【(特定非営利活動法人) 大和市腎友会】

●協議内容の記録	●提案者のまとめ
<p>① 協働事業として取り組む理由について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・需要があるから必然的に取り組んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大和市には移動困難者といわれる人たちが1万人いてNPOや福祉団体では対応しきれていない。まだまだ他の団体も参加して溝を埋めていく必要がある</li> </ul>
<p>② 協働の具体的内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎サービスのPRのために親しみやすい名称 (ニックネーム) を考えてみるのはいかがでしょうか。(例:腎友会の頭文字をとって「Jクラブ」なんていうのは?)</li> <li>・3事業を協働でできないのか?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだまだ協働事業として始まったばかりで各団体とももっと切磋琢磨していく必要があるのでは?</li> </ul>
<p>③ 協働の体制づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有償移送サービスが複数展開しているが、例えば新規利用希望者へのインフォメーションの共通化 (市が窓口になるとかはできているのか? すべきでは)</li> <li>・商店街 (会) との市民の協働の可能性は?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他団体との協働のあり方としては今後の課題として考えていきたい</li> </ul>
④ これから公開検討会までの進め方について	
⑤ その他	

**提案者からひとこと**  
 今日移送サービス事業が3団体来ているが「3団体まとめて事業したら」とか「名前を変えてわかりやすくしたら」などの意見をいただいた。この場はいろんな人と意見を交わすことに意義があると思う。



## ■アンケートから

・全体的に見て大和市・児童育成課の方針は「少子化政策」であって「少子化対策」とは考えにくい。現状では少子化の一途であるから思い切った姿勢がほしいと思う。

・4. 移動制約者の外出介助サービス事業について。①先行している他団体との差別化（売り）を明確にしたほうがよいのでは。②ホームページや市の窓口に広報活動を求めるだけでなく、地域にいる民生委員（地区社協でPR）を活用する方法もあるのではないのでしょうか。③カーナビ（必要？）、局長謝礼（金額の根拠？）は再考したほうがよいと思います。

・子育て支援が、もっぱら母親のためということにショックでした。父親も含め、社会が支援することが、少子社会を救えると思うんだけどなあ・・・

・移動サービスのテーブルを担当しました。3者間の連携したPR方法の検討は必要と思います。

・「移動制約者の障害除去」「社会参加促進」という目的はよいと思います。ただ must 需要さえまかなえない現状で want 需要のことまで手を伸ばすのはいかがなものか？と思います。もしも手を伸ばさずにしても「want 需要」の中身を詰めた上でカバーする必要性、対象ややり方を明らかにすべき。その手段として STS があり、それはオカネがかかるからコミュニティバスとのことだが、両者はその趣旨が異なり、選択肢として飛躍があると思う。want 需要をカバーする必要性が認められた上で、DRT が必要だとなった上で、DRT が何を目的として誰が誰をどんな形でカバーしていくかを議論することが先で、その上での手法選択であると思います。